

聖心女子大学
2026年度 大学院（人文社会科学研究科）2月期入試
解答と講評

<日本語日本文学専攻 修士課程>

○専門科目試験

【出題意図】

修士課程において専門的な研究課題に取り組む際には、その課題に直接関わる分野の知識はもちろんのこと、1つの分野に偏ることのない、隣接分野についての広範な知識が求められます。当該試験科目は、本学修士課程日本語日本文学専攻における4つの分野（日本古典文学・日本近現代文学・日本語学・日本語教育学）について、それぞれの分野における基本的な事柄の説明を求めるものです。

4分野15問のうちから、2分野以上にわたって5問を自由に選択させ、それに解答させることで、受験生が複数分野についての基本的な知識を有しているかを測ります。日本古典文学・日本近現代文学の分野に関しては、基本的な作品・作者・専門用語・ジャンルなどを文学史・文化史の流れの中で適切に理解しているかを問います。日本語学・日本語教育学の分野に関しては、専門用語をそれに該当する具体的な言語現象・社会現象と併せて正確に理解しているかを問います。

また、修士課程で課される修士論文作成に必要なアカデミックスタイルの文章を書く能力を有しているかを測ります。そのため、すべての問は論述式で解答することを求めます。

【評価時の観点】

すべての解答において、次の5点を評価の観点とします。

- ①当該分野の基本的な事柄を正確に説明しているか。
- ②適切な固有名・具体例を示しながら、論理的に説明しているか。
- ③文章表現が一定の水準に達し、わかりやすい文章で書いているか。
- ④その問に解答する論述として、過不足なく適した分量の文字数で説明しているか。
- ⑤誤字・脱字、単語の誤用などの表記上または表現上の誤りはないか。

○外国語試験（英語）

【出題意図】

グローバル化が進む現代、日本語日本文学という分野においても、外国語の論文を読み、外国語で研究成果を発表する機会は増加しています。当該試験科目は、日本語日本文学に関する最新の研究成果や情報を収集・参照し、自身の研究を発信するために必要な語学力を測るものです。

出題した英語の文章の内容は専門的ですが、辞書があれば十分読み解ける平易な文章構

造のものを選んでいきます。日本語訳、要約、文章の内容についての説明などが適切にできているかを問います。同時に、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、論理的で柔軟な思考力・判断力、適切にそれを表現・発信する力、幅広く深い教養、広く人間の生き方やその歴史、多様な社会のあり方に対して関心を抱いているかどうかという観点からも評価しています。

【評価時の観点】

次の4点を評価の観点とします。

- ①辞書を適切に利用し、文脈に合った正しい語義を選ぶことができているか。
- ②指定箇所の文章構造を正確に理解し、適切に日本語訳できているか。
- ③テキスト全体の趣旨を把握し、議論の流れを説明できているか。
- ④日本語訳の文章表現が日本語として一定の水準に達しているか。

<哲学専攻 修士課程>

○専門科目試験

【出題の意図・評価の観点】

哲学専攻に関連する複数の設問のなかから受験者が一問選択し、それについて日本語で論述する形式です。哲学専攻修士課程で専門的・学術的研究を遂行するために必要な論理的思考力および日本語の表現力を確認するとともに、修士論文を執筆する際に求められる基礎的な知識や学術的作法を身に着けているかどうかを確認します。具体的には、選択した設問に関係する概念を正確に把握しているか、その概念の学術上の位置づけを理解しているか、設問に関係する学術的議論や学術的潮流をふまえているかを確認しつつ、受験者が作法に則りながらも柔軟に、論理的かつ説得的に問いについて論じることを求めています。

○外国語試験（英語）

【出題の意図・評価の観点】

哲学専攻に関連する英語の文章を読み、内容を正しく把握し、日本語で適切に表現できるかどうかを問う問題です。哲学専攻修士課程で学修するために必要な英語の文法の知識と語彙力を確認するとともに、文脈のなかで各単語の語義を正確にとらえ、適切な訳語を選び、論旨を損なうことなく日本語で表現できるかどうかを確認しています。

<史学専攻 修士課程>

○専門科目試験

【出題意図】

歴史学において修士課程で専門的な研究課題に取り組む際には、自分の研究テーマに関する知識はもちろんのこと、各時代あるいは各地域の歴史像を適切に把握するための広範な知識と史料読解力が求められます。当該試験科目は、受験者それぞれが研究テーマを追求するにあたって、前提となる基礎知識および読解力を問うものです。

日本史コースはⅠにおいて、受験者が研究テーマとする時代に関する基礎的な知識と読解力を有しているかどうかを問うため、中世史・近世史・近現代史の3題を用意し、各自が希望する時代に関する設問に解答します。各設問とも各時代における同時代史料の読解力が問われます。

Ⅱは日常的に歴史学に関する鍛錬を繰り返しているかどうかについて確認するため、研究テーマに関する文献の内容を紹介してもらいます。

西洋史コースについてはⅠにおいて、西洋各地域の各時代に関する基礎的な知識を有しているかどうかを問います。

Ⅱにおいては、受験者が研究テーマとする各時代の諸状況を理解するために求められる基礎的な考察力について、英語による文章の読解を通じて判定します。

【評価時の観点】

すべての解答において、次の5点を評価の観点とします。

- ①当該分野の基本的な事柄を正確に説明しているか。
- ②当該分野を研究するにあたって必要な文献や史料を適切に読解できているか。
- ③文章表現が一定の水準に達し、わかりやすい文章で書いているか。
- ④その問に解答する論述として、過不足なく適した分量の文字数で説明しているか。
- ⑤誤字・脱字、単語の誤用などの表記上または表現上の誤りはないか。

○外国語試験（英語・ドイツ語）

【出題意図】

修士課程において専門的な研究課題に取り組む際には、歴史学の研究にとって不可欠な史料読解能力が求められます。西洋史や東洋史コースの場合は専門とする各地域の言語による史料読解が、日本史コースの場合は専門とする各時代に用いられた言語による史料の読解能力が求められます。本学修士課程史学専攻においては、以上のような観点に基づき、歴史学的内容をテーマとする外国語の読解を課しました。

外国語のうちの各言語については、日本史コースと東洋史コースについては英語、西洋史コースについて出願時に選択した言語を選びます。なお、日本史コースにおいては和製漢文などを読解することが必要不可欠であり、そのための十分な能力が備わっているかどうかについても、文法に共通性のある英語の試験を通じて判断します。

いずれも言語についての読解力、及び文章がテーマとしている歴史的事象についての読解力を問うており、それらに解答できる基礎学力を有しているかどうかを判定します。

また、修士課程で課される修士論文作成に必要な文章を書く能力を有しているかについても測りますので、すべての問は論述式で解答することを求めます。

【評価時の観点】

すべての解答において、次の5点を評価の観点とします。

- ①外国語を読解する能力を十全に有しているか。
- ②試験を受けた言語そのものではなく、入学後に必要となるその他の言語（古文を）を身につけるための基礎学力が備わっているか。
- ③文章表現が適切か。
- ④過不足なく適した分量の文字数でまとめられているか。
- ⑤誤字・脱字、単語の誤用などのケアレスミスはないか。

<社会文化学専攻 人間関係研究領域 博士前期課程>

○専門科目試験

【出題意図】

社会学：I-1～5では社会学と社会調査の基礎的な学術用語の説明を求めました。II-1,2は修士論文の計画とその社会学の理論との関連および学術的意義についての論述を求めました。

社会心理学：I-1～4では社会心理学の基礎的な学術用語の説明を求め、I-5では基礎的な統計結果の読取りと解釈を求めました。II-1と2は修士論文の計画とその研究の社会心理学の理論との関連および学術的意義についての論述を求めました。

○外国語試験（英語）

【出題意図】

福島県相馬市に「相馬野馬追」という戦国武将の出で立ちで馬に乗り、空高く打ち上がった旗を奪い合うという伝統行事があります。従来、その参加者は男性および20才以下の未婚の女性と決められていましたが、1000年の歴史を経て女性の参加条件の縛りが撤廃されたという画期的なニュースを取り上げました。日本社会の動態を表す記事でしたが、本試験ではその全訳を求めました。

<社会文化学専攻 比較文化研究領域 博士前期課程>

○専門科目試験

【出題意図】

本試験問題は、現代における社会文化的現象を考えるうえでのキーワードの一つになっ

ている、AI（人工知能）と、民主主義社会を機能させるうえで重要な役割を果たしているジャーナリズムとの関係を問うものである。

問題文の中の問いは、二つに分節化されており、まず、AI がジャーナリズムの一連のプロセスの中でどのような部分にどう関わりうるのかを問うものである。この設問の狙いは、AI およびジャーナリズムという現代社会文化を研究するうえで重要な用語をどの程度正確に理解しているかを見るものである。

この回答を踏まえ、このAI とジャーナリズムとの結びつきが、「社会」に対してどのような影響を与えうるかを問うたのが、二つ目の問いである。この狙いは、「社会」というより大きなコンテキストの中で、AI がジャーナリズムに与えうる変容をどう捉えるかという、解答者の問題意識を見るものである。

○外国語試験（英語）

【出題意図】

この試験問題の意図は、英語の記事を正確に読み取り、内容の重要点を把握したうえで、日本語で簡潔にまとめる力を評価することにあります。細部にとらわれすぎず、全体の論旨を整理して文字数の制限内で論理的に表現する力、日本語として読みやすい文章に再構成する力を測ることも目的としています。受験者は、ルーツ・ツーリズム（ヘリテージ・ツーリズム）の具体的な事例と、それを支える社会的背景（DNA 検査や資料のデジタル化、各国の観光政策など）を区別し、記事の主題が「祖先をたどる旅行の広がりとその意義」にあることを把握する必要があります。そして、ルーツ探しの旅が単なる観光ではなく、人々が自分の出自やアイデンティティを見つめ直す機会であると記事が示していることを理解する必要があります。受験者の回答には、記事の中で主体となる複数の人物の混同が見られ、日本語の語彙・要約力の課題も見受けられました。とはいうものの、辞書の使用を許可されたこともあり、試験の意図として優先度の高かった英語の安定した読解力を確認することができました。

<人間科学専攻 教育研究領域 博士前期課程>

○専門科目試験

【解答例】

問題 1.

(1)

「特にない」と回答している割合の多さに注目できるかがポイント。この点と関連づけて「日々の暮らしに役立つ」の少なさや「勉強することが義務だから」の多さなどからと関連づけて、日本において学校における学びの意義が自身の日常生活や将来設計と結びついていない現状があることを指摘してほしい。

(2)

- ・授業において生活や社会とのつながりがあまり重視されていない（学びの質の問題）
- ・社会の意識改革（学歴社会の打開）
- ・学校が社会に開かれた場になっていない（学校づくりの視点）

といったあたりに要因を見出して、それぞれの研究関心から研究構想を述べてほしい

問題 2.

1. 多様な文化・言語的背景をもつ子どもや家庭が互いに尊重しながら共に育ち合うことを目指す保育。近年の国際化の進展や多様な家庭環境をもつ子どもたちが増えてきた社会的な背景を踏まえ、子どもたちが互いの違いを尊重し合いながら育ち合う力を育むと共に、家庭との協働を通じて地域における多文化共生の基盤を形成することも目指されている。

2. 家庭の経済状況や文化的背景等によって、子どもたちの遊びや学習、社会参加などの体験の機会に差が生じている状況のことを指す。このような格差は、近年、子どもたちの社会的な能力や自尊感情等の差につながる課題として注目されており、保育や教育の場において、すべての子どもたちに豊かな体験の機会を保障していけるような環境づくりや地域資源の活用が求められるようになってきている。

3. 学校運営に地域住民等が参画し、学校と地域が協働して子どもたちの学びや育ちを支えていく仕組みを指す。近年、少子化の進行や地域のつながりが希薄化している一方で、学校の抱える課題は複雑化・多様化しており、そうした社会的背景を基に、地域全体で子どもたちの育ちを支える体制を構築していく必要性が高まっている。学校運営協議会を通じて、学校の教育目標やビジョンを共有し、地域全体で子どもを育てる体制を構築していくことが目指されている。

4. 幼児教育と小学校教育を円滑な接続を図るため、幼稚園・保育所と小学校が連携して、小学校就学前から入学後（5歳児から小学校1年生の2年間）の教育の充実を推進していこうとする取り組みのこと。幼児教育と小学校教育の違いや特性を互いに理解しつつ、子どもたちの学びの連続性を踏まえて、それぞれの子どもの学びや生活の基盤を育むためのカリキュラムの作成や評価の工夫が求められており、そのために、子どもに関わるすべての関係者が立場を超えて連携・協働することが目指されている。

5. 教育目標の実現に向けて、各学校や園が、教育課程を軸にしながら、その編成、実施、評価、改善を組織的かつ計画的に進め、教育の質の向上を継続的に図っていく取り組みである。その具体化のために、子どもや地域の実態を適切に踏まえたうえで教科横断的な視点で教育活動を計画・展開していくことや、PDCAサイクルによる評価・改善、人的・物的資源

の活用等が求められている。

6. ジュネーブで生まれ、フランスで活動した思想家。政治論や文明論から文学作品に至るまで彼の作品は多岐に渡るが、特に『エミール』は教育学の古典とされる。この著作のなかで、ルソーは、文明がもたらす悪から子どもの自然な善性を守るという「消極教育」を初期の教育方法として採用し、子ども期の固有の意味を強調した。このことは、教育史上、一般に「子どもの発見」と捉えられ、彼以後の教育学の展開に大きな影響を与えた。

【講評】

問題 1.

(1) 「特にない」と回答している割合の多さに注目できている解答よりも、「勉強することが義務だから」について、記述している解答が多く見られました。日本において学校における学びの意義が、将来設計と直接は結びついていない現状があることを指摘しつつも、間接的には繋がっているという解答がありました。問 1(1)に関しては全体的に正解率が高く、統計の読み取りができていました。

(2) 授業において生活や社会とのつながりがあまり重視されていない(学びの質の問題)や社会の意識改革(学歴社会の打開)といった点に要因を見出して述べていると思われる解答はありましたが、それぞれの研究関心から研究構想を述べる部分に関しては、記述が十分ではなく、自身の意見を述べるにとどまっていました。そのため、解答率に大きく差が出る傾向はありませんでした。

問題 2.

本問題は、単なる説明だけではなく、その「教育的背景について、重要と思うこと」に触れながら解説することが求められていますが、そのような背景や文脈について言及されていない解答も見受けられました。

様々な事象や取り組み、また人物の業績や思想について理解したり、そのことを論じていく際には、それらが生まれてきた背景や文脈にも目を向け、それらとの関係を捉える視点が必要となります。そのような視点をもって物事を捉えていくことができれば正答率が向上するでしょう。

問題 3.

本問題は資料の文章を読み二つの設問に答えるわけですが、そのためには文章をしっかりと読まなくてはなりません。しっかり読むとは単に書かれてあることがらを確認するのではなく、書き手は何を主張したくてこのように書いたのかという「意図」をとらえることです。

(1) 要約問題ですが、単なる要約ではなく「筆者の主張」をまとめることを求めています。ですから、書かれているキーワードと思われる語を並べただけでは、不十分です。「教員は単なるサービス業ではない」とするのではなく、ではどのような仕事が求められるのかといったところまでの言及が必要です。いくつかの学校現場の具体例が書かれていますが、それは何を主張するための例なのかを考えなくてはなりません。

(2) 「あなた自身の考え」をまとめる問題です。ただし、「筆者の主張」を踏まえてです。残念ながらここが不十分な解答が多く見られました。自分の考えを述べることはある意味で容易です。しかし、筆者の考えを踏まえるとなると、まずそれに対しての自分の意見を述べなくてはなりません。それも、できれば教育学的知見を押さえた上の批評であることが求められます。「新自由主義」の意味が難しかったかもしれませんが、筆者の書きぶりからある程度それを推測することはできるはずですが、「経済」の論理で教育を語ることができるのかどうかを問うているのが筆者の主張ですから、そこを踏まえて「あなたの考え」をまとめられたかどうかポイントになります。

○外国語試験（英語）

【解答例】

問1.

下線部(a)

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

下線部(b)

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

問2. ※以下、いずれかの箇所が解答に含まれていること

【第2段落】

大人がコーチやガイド、あるいは説明者としての役割を担い、子どもの後を追って、解説を読んだり、操作の仕方を提案したりすると、子どもが展示物についてより広く深く探索することができる。

【第3段落】

親が自発的に説明を行い、それを子どもが科学の展示物を操作しながら聞いた際は、表面の手続き的なレベルではなく、深く概念的なレベルまでその展示を理解しやすい。

問3.

【strategy 1】 イ 【strategy 2】 エ

問4.

科学的な目標群の家族は、より多くの会話を生成し、より協調し、より有益なテストをデザインする傾向があった。対して、エンジニアリングの目標群では、親は後ろに引く傾向があり、大人の足場かけなしに子どもだけでデザインし、解釈していた。結果として、科学的な目標群の子どものほうが、その課題に関してよりよく学習していた。

【講評】

本論文は、ミュージアムでの学習という生涯学習に関する英文です。

「問1」の下線(a)は、本論文がこれまでの研究のどのような課題を克服しようとするものなのかという「新規性」を表し、下線(b)は、ミュージアムでの学習という生涯学習に関してここ数年、どのような学術的な検討が行われてきたのかという「背景」を表し、本論文が学術的にどのような価値をもつのかを示す(マッピング)箇所です。このようなマッピングを理解し、本論文のおおまかな文脈を掴むことが大切です。

直訳であり長文ではないため、構文をしっかりとらえ文脈の中で各単語の意味を特定する力が必要となります。

およそ正答に至っていましたが、文脈をとらえきれず単語の意味を取り間違える解答もありました。辞書には1つの単語においても複数の意味が記載されていますので、どの意味が的確なのかを文脈から特定することが必要となります。

「問2」は、下線部(c)の具体例として、「子どもに対する親の働きかけ(行為)」と「その働きかけが子どもにとってどのような学びの結果(意味)をもたらしたか」が問われ、問1での「親のファシリテーターとしての役割」が実際、どのように発揮されているのかを以降の文章から読み取る問題となります。

直訳とは異なり、文章を概観しおよその意味を理解する力が必要となります。そのためにも「問1」にて、「この論文が何について述べているのか」を理解しておくことが大切となります。

長文の中から意味を拾う問題だったこともあり、正答率が高くありませんでした。教育学・学習論の基礎的知識をもって一文一文をつなげていくことができれば、正答率が向上するでしょう。

「問3」は、下線部(d)“These two strategies”とは具体的に何を指し示すのかを読み取る問題です。「これら2つの方略」と記載された後に、「どれが1つ目で、どれが2つ目か」

という論理的な読み方が必要となります。

長文の中から意味を拾う問題だったこともあり、正答率が高くありませんでした。教育学・学習論の基礎的知識をもって「1つ目」「2つ目」の方略を特定し、それぞれの該当箇所の構文をしっかりととらえることができれば、正答率が向上するでしょう。

「問4」は、下線部(e)に関する研究結果を述べた部分を同じ段落内から探す問題です。構文が少し複雑なため正答率が高くありませんでしたが、文脈をしっかりととらえること、教育学の基礎的な知識を用いて意味を拾うことで、正答率が向上するでしょう。

<人間科学専攻 視聴覚情報研究領域 博士前期課程>

志願者がいなかったため、専門科目試験、外国語試験（英語）いずれも実施なし。

<人間科学専攻 発達心理学研究領域 博士前期課程>

志願者がいなかったため、専門科目試験、外国語試験（英語）いずれも実施なし。

<人間科学専攻 臨床心理学研究領域 博士前期課程>

○専門科目

【問題1】 次の(1)～(4)の用語についての用語説明。

【問題2】 次の(1)と(2)についてそれぞれ解答を求めた。

(1) 斜視とは何かを説明し、子どもの斜視における問題点とその対策について述べなさい。

(2) プレイセラピーとは何か。また、あなたがプレイセラピーを行うとするならば心がけたいと思う点について、具体的に述べなさい。

【出題の意図と評価の観点】

【問題1】は、心理学用語の知識を正しく保持し、適切に説明できる能力について評価するために作成されました。また、文章構成が明瞭で論理的か、誤字脱字がないか等の形式的な面も評価のポイントとしました。

【問題2】は、問題1と同様に知識を正しく保持し、適切に説明できる能力、および、論理的思考能力について評価するとともに、それぞれの設問において次のような出題意図がありました。

(1) 斜視という現象について正しく理解しているか、それが子どもの視知覚・認知の正常な発達を阻害することの問題点や、早期の矯正・治療の必要性について理解ができているかを確認する。

(2) 入学後には院生として必ず関わることになるプレイセラピーについて正しく理解し、臨床、特に子どもの臨床において必要な姿勢や具体的な配慮など、実践的な理解ができているかを確認する。

○外国語試験（英語）

【問題1】は、近年注目されている、ソーシャルメディアの使用が心理社会的適応に及ぼす影響について述べた文章の中で、特に青年期を取り上げた部分より出題しました。問1の和訳問題は、主語と動詞の把握がやや難しく、また専門用語の用いられている文章の和訳を課し、文章の構造の理解を確かめるとともに、心理学の英語論文において用いられる変数間の関係を表す表現（例えば negative links, …does not remain uniformly elevated…）を正確に読み取れるかを確かめました。問2では、文章全体の内容把握ができていのかどうかということに加え、自身の知識を盛り込み、論理的な文章を書くことができていのかを評価しました。

【問題2】は、心理療法において、患者の「病理」や「障害」ではなく「強み」に焦点を当てるアプローチの歴史的変遷（マズローやロジャーズの貢献とその限界）について述べた文章より出題しました。問1の和訳問題は、関係代名詞や並列構造といった構文の把握に加え、心理学分野の文献で頻出する専門用語（*pathology, disorder, defensiveness* など）や表現を文脈に合わせて正確に訳出できるかを確かめました。問2では、文章全体の論旨（病理モデルからポジティブなアプローチへの移行と各理論の課題）を正しく把握できているかに加え、臨床心理学に関する自身の知識を交えつつ、多角的な視点から自らの見解を論理的に記述できているかを評価しました。

<人文学専攻 博士後期課程 哲学美学研究領域>

【出題の意図・評価の観点】

人文学専攻哲学・美学研究領域に関連する英語の文章を読解し、内容を正しく把握し、日本語で適切に表現できるかどうかを問う問題です。博士後期課程で研究をすすめ、最終的に博士論文を執筆するために必要な英語の文法の知識と語彙力を確認するとともに、文脈のなかで各単語の語義を正確にとらえ、適切な訳語を選び、論旨を損なうことなく日本語で表現できるかどうかを確認しています。

<人間科学専攻 博士後期課程 発達臨床心理学研究領域>

【出題の意図・評価の観点】

英語の学術論文を読みこなすことができる能力を保持しているかについて判断することを目的としました。より具体的には、まず、出題した論文の研究目的、方法、結果、討論の内容について正しく理解し、要点を捉えられているかを確認しました。その上で、この論文の内容について、個人としてクリティカル、かつ、建設的な意見を述べるができるかどうかを評価しました。